

ストーリー

「一度でも目にすると呪われて死ぬ」

そう言い伝えられる人形が存在する。

「厄」とよばれるこの人形は、村で起きた災害を鎮める
人身御供として人間の髪の毛・血・心臓を埋め込んで作られる。

この人形は「部外者が見れば呪われる」とされた。

呪いを受けた者は、その日の夜金縛りにあい、苦しんで死ぬという。

あなたは、観光で訪れたある村で、

秘蔵されていた人形を好奇心から見てしまった。

「あんたは決して見ちゃなんねえ人形を見ちまった」

呪いを祓うため、あなたは村の老婆に用意された部屋で一夜を明かす。

丑三つ時に差し掛かると、金縛りに襲われる—